

「はじめに」——シンポジウムの開催にあたり——

皆さん、こんにちは。谷川でございます。

本日は多方面からたくさんの皆様にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

この奈良県という土地柄は非常にすばらしく、さまざまな文化遺産もございます。

奈良県立医科大学の呼吸器内科の教授の木村弘先生は、睡眠時無呼吸症候群の日本のトップの先生です。その木村先生が奈良にお見えということは、本当に県民の皆様にとっては、いついびきをかいても大丈夫だということです。

実は私でもがこうやってお話をさせていただく機会を得たのは、蓮花先生が過去30年近くにわたって、奈良県下で安全運転のためのさまざまな取り組みをされていたからです。

私は国際交通安全学会で自主テーマに昨年応募して、奈良県の方々、特に奈良県のトラックドライバーを対象にこの「睡眠時無呼吸」の早期発見のための健診をしたらどうかと提案しました。

ここでは「睡眠呼吸障害」という言葉を使っていますが、平たく言えば睡眠時に息が止まったり、止まりかけたりすることです。

実はこの自分ではわからないというのがこの病気の大きなポイントです。そういう話も含めて、最初にまず蓮花先生から現在行われている奈良県の交通安全に関する取り組みについてご紹介いただき、私からはなぜそういう「睡眠呼吸障害」の健診が必要かという話をします。これは、実は事故防止だけではなくて、ご本人の健康にとっても非常にかかわっており、早期発見・早期治療が大事です。その辺の話もしたいと思います。

さらに今、奈良県下で木村先生が行われているさまざまな「睡眠呼吸障害」の対策の取り組みにつ

いてご紹介いただきます。そして、恐らくこういう話を聞くと自分たちも一度健診を受けてみたいという要望もあるかと思えます。病院に行こうかどうかどうしようかと迷うのではなくて、家で自分がふだん寝ているそのままの状態を検査する方法があります。

通常の検査では、ふだんお酒を1合、2合、飲まれている方でもお酒を飲まずに行います。そうなりますと、結果はいつもよりも少し軽めに出てしまいます。そういうことなしにふだんどおりのお酒の量で、どれだけ無呼吸をお持ちかが判定できますので、もしよろしければそういう検査も受けていただければと思います。後ほどその検査の実演を天理医療大学医療学部教授の櫻井先生よりお話しいたします。

最後に岩貞るみこさんです。IATSSブックレットNo1の『これからの交通安全』の一番最初に、岩貞さんが講演された記事が書かれています。岩貞さんは交通安全を含めて非常にさまざまな分野で執筆活動をされています。こういう一般の方の目を通して、このような無呼吸の実態もしくはこの無呼吸を、今あまり世の中では重く見ていない実態がどのようなことにつながるかも含めてお話ししたく予定です。

そういうわけでこれから3時間ちよつとの間、皆さんとこの無呼吸について考える時間を持ちたいと思います。ぜひともこの機会があるからの奈良県下における交通安全の向上のお役に立てることを期待しまして、私のあいさつとさせていただきます。

二〇一三年二月



谷川 武

愛媛大学大学院医学系研究科公衆衛生・健康医学分野教授